

(算数科)

学び合い、高め合いながら、基礎・基本の定着を図る算数科の指導
～「交流活動」の場を工夫し、子どもたちの基礎・基本の定着を～

大阪市立鳴野小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

鳴野小学校の子どもたちは人懐っこく、素直な子どもが多い。また、家庭環境も比較的恵まれており、保護者の教育への関心も高いと言える。「全国学力・学習状況調査」等の結果は、大阪市平均をやや上回り、全国平均程度である。

一方、課題として「決められたことには積極的に取り組むことができるが、自分の思っていることや感じていることを表現したり、相手に伝えたりすることは十分とは言えない」という子どもの実態が挙げられる。自らを表現するスキルや経験・知識が不足していると同時に、集団の中で心を解き放ち、共感的な態度でお互いを受容することが不得手であると考えられる。

2015年度の研究では、「学び合い、高め合いながら基礎・基本の定着を図る算数科の指導～「交流活動」の場を工夫し、子どもたちの学びを支える～」を研究主題として、「交流活動を通して基礎・基本を培う」ことを主眼に、授業研究を重ねてきた。「交流」に関しては、これまでの積み重ねが成果として表れている一方で、「何を交流するのか」「何のために交流しているのか」が不明瞭な授業も見られた。「基礎・基本」については、「何を基礎とし、何を基本とするのか」を追究しながら授業づくりに努めたが、「基礎・基本の関連」を分析することの甘さが見られた。

したがって、本年度はこれらの課題を克服すべく、研究主題を上記のように設定し、「交流の目的、内容を明確にする」ことと、「基礎→基本の関連を明らかにする」ことで、より質の高い授業づくりをめざしていきたいと考えた。

2. 研究の視点

(1) 基礎・基本を明確にして、定着を図る指導法の工夫

「交流活動」を通して、子どもたちは何を学ぶのかを明確にする。活動があっても内容が無い授業にならないようにするためには、その学習を通して子どもが身に付けるべき基礎・基本を明確にしておく必要がある。

各学年の指導案では、本単元で身に付けるべき知識や技能（基本）とそのベースとなる知識や技能（基礎）を提示する。さらに、子どもの学びの道筋（児童の意識の流れ）を考えながら、主発問を設定すると共に、掲示物、ヒントカードなどを用意し、授業に備える。

(2) 算数科における、効果的な交流活動の工夫

○交流の目的、内容を明確にする

- ①多様な意見を出し合う
- ②1つの考えに（よりよい方法に）集約する
- ③マイナーチェンジ、いくつかのパターン
- ④活用、練習を積んで定着

3. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

①基礎・基本を明確にして、定着を図る指導法の工夫

・基礎・基本を明確にし、子どもの意識の流れを考えることによって、指導者は子どもの実態に即した学習計画を立てることができた。

・指導者は、本時で学ぶべき内容やその道筋に対する見通しができているので、つまりきのある子どもに対し、教材や指導教具の工夫、即時支援の言葉がけなどで、場に適した指導・支援をすることができた。

②算数科における、効果的な交流活動の工夫

・場に応じて交流の形態「ワンリ-ワ-ンタイム（一人学び）」「グループタイム（班交流）」「クラスタイム（全体交流）」を工夫することによって、子ども、指導者共に、交流することへの抵抗感が少なくなった。

・子どもたちの交流が円滑に進むようにするために、指導者は話型を示したり、既習事項を教室掲示したりした。これにより、子どもたちが交流の場で算数用語を使う場面が増えるなど、基礎・基本の定着につなげることができた。

・交流の機会を算数科だけでなく他教科や領域活動など幅広く取り組むことができた。そうすることで、どの場面でも相手に自分の考えを伝えたり、聞いたりする機会を増やすことができた。

(2) 今後の課題

①基礎・基本を明確にして、定着を図る指導法の工夫

・交流が活発になると、多様な意見が出過ぎて、中心となる課題から離れることが多かった。授業を進めるにあたって、本単元でつきたい力をしっかりと見据え、そこに向かうための指導方法や教材研究を引き続き行っていく。また、基本が十分に身に付いていない子どもや、理解力、計算力が不十分な子どもへの支援の方法についても研究を進める。

②算数科における、効果的な交流活動の工夫

・子どもたちが交流を通して、進んで発表することはできたが、それぞれの考えをつないだりまとめたりするための時間を確保することが難しかった。今後は、交流する時間を踏まえ、全体の時間配分を意識して実践に取り組んでいく。

・発表したら終わり、ハンドサインを出したら終わりとせず、子どもたちの思考を揺さぶり、友だちと同じ意見でも再度自分の言葉で発表させたり、友だちのやり方を他の子がもう一度説明したり、思考を深めていくための交流活動を追究する。